

第5回新宿区高齢者保健福祉推進協議会【資料1】（新宿区介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告書（案））に関する委員意見と区の考え方

意見 No	項目	7/21 推進協議会 【資料1】 ニーズ調査 報告書 頁	意見	区の考え方
1	第2章 調査結果の詳細 2 家族や生活状況について ③介護・介助が必要になった主な原因	P14	国民生活基礎調査では認知症が介護原因のNo.1であるが、新宿区では骨折・転倒がNo.1である。これは特徴的である。	「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」では、調査対象は要支援1・2までの方であり、この設問の回答者数は少ないですが、ご指摘のとおり、介護が必要となった要因は「骨折・転倒」が最も多くなっています。 これは、「高齢者の保健と福祉に関する調査」の【要支援・要介護認定者調査】においても同様の結果が出ています。同調査では、介護が必要となった原因として、回答者の約7割を占める女性で「骨折・転倒」が最も多いこと、また回答者の約9割を占める後期高齢者でも同様に「骨折・転倒」が最も多いことが、全体の特徴に現れていると考えます。 計画素案P16から始まる「調査結果から見受けられる状況」に、この結果の性別・年齢区分別のデータを掲載します。
2	第2章 調査結果の詳細 2 家族や生活状況について ④主な介護・介助者	P15	若松町は、介護の必要な人も多く老々介護の施策が必要と感じる。	各地域の高齢者総合相談センターは、地域特性を踏まえてケアマネジャー等と連携し、介護者支援の視点を共有しながら相談支援にあたっています。

意見 No	項目	7/21 推進協議会 【資料1】 ニーズ調査 報告書 頁	意見	区の考え方
3	第2章 調査結果の詳細 3 からだを動かすことについて ⑧外出を控えているか	P25	若松町、大久保で外出を控える傾向が高い、外出を促すプログラムが有効か？しんじゅく100トレなど、しかけていく地域ではないか？（オーラルフレイルも）	外出を控えている人の理由を見ると、「足腰などの痛み」がどの地域でも割合が一番高く、その他の理由は地域によってばらつきがあり、若松町や大久保地区特有の傾向はみられませんでした。まずは、地域を特定したしかけではなく、区内全域の状況を見ながら、高齢者が身近な地域の中で住民主体で介護予防・フレイル予防に取り組んでいけるよう展開していきます。
4	第2章 調査結果の詳細 4 食べることについて ⑦噛み合わせは良いか 10 各種リスクの状況 ②転倒リスクのある高齢者割合	P29~P36 P34, P84	歯を失ったままだと転倒のリスクも高くなると考えられる。若松町など義歯の使用率低い地域も見られ、固いものが食べにくかったり、むせ・口の渇きもあるように思う。地域の状況に合わせた取組が必要だと思われる。	歯を失ったままだと転倒のリスクも高くなることについては、学術的にも言われているところでは、学的にも言われているところでは、現在実施している歯科健康診査を高齢期の特性に応じた内容に充実させて実施し、その中で地域的な関わりを検討していきます。
5	第2章 調査結果の詳細 5 毎日の生活について ⑩生きがいの有無	P55	生きがいのあり、なしは、地区でバラツキが大きい。	区内のどの地域においても高齢者が生きがいを持って生活できるよう、高齢者自身も担い手として主体的に参加する「地域支え合い活動」の推進や、高齢者クラブへの活動支援等、様々な施策を推進していきます。
6	第2章 調査結果の詳細 6 地域での活動について ①会・グループ等への参加頻度	P56	若松町、柏木で比較的多い。この内容はどのようなものか？	今回の調査では、回答者が参加しているボランティアグループの内容までは把握しておりません。
7	第2章 調査結果の詳細 10 各種リスクの状況	P83以降	わかりやすいです。	各種リスクの状況については、標本数が少ないため参考としての掲載になりますが、本調査における各圏域の調査結果を踏まえながら、今後の事業を展開していきます。

意見 No	項目	7/21 推進協議会 【資料1】 ニーズ調査 報告書 頁	意見	区の考え方
8	第2章 調査結果の詳細 10 各種リスクの状況 ④直近6ヵ月間に体重減少を認め、低栄養状態にある高齢者割合	P86	戸塚の低栄養状態は対策が必要そうですね。	低栄養の割合が一番低い地区で該当者数は2件、一番割合が高い戸塚で該当者数は7件であり、標本数が少ないため、経過を見る必要があると考えます。今後「高齢者の保健と介護予防の一体的実施事業」の中で、健診結果や医療レセプトデータ等を分析し、地域の特性を見極めていく予定です。
9	第2章 調査結果の詳細 10 各種リスクの状況 ⑤口腔機能が低下している高齢者割合	P87	口腔機能が低下しているいわゆるオーラルフレイルは全身状態が悪くなるフレイル状態の前段階であり、この段階でいかに進行をくいとめるのかが介護度の進行を遅くすることに大切なことだと思う。	現在実施している歯科健康診査を高齢期の特性に応じた内容に充実させて実施し、オーラルフレイル予防に取り組んでいきます。
10	第2章 調査結果の詳細 10 各種リスクの状況	P83~P90	各種リスクをまとめてみました（別紙1参照）。 各々、各5位まで出しました。 例えば、「薬王寺地域ささえあい館」での取組の成果はわかりませんが、榎町エリアにありますのでこのエリアで取り組む内容で強化しなければならぬのは6項目（因果関係をまとめると☆○✓の3項目）そしてさらに男性の一人暮らしは多いのかどうかによって内容が変化します。	各種リスクの状況については、標本数が少なく、参考としての掲載になりますが、今回の調査結果を踏まえながら事業に取り組んでいきます。

意見 No	項目	7/21 推進協議会 【資料1】 ニーズ調査 報告書 頁	意見	区の考え方
11	第2章 調査結果の詳細 6 地域での活動について 10 各種リスクの状況 ⑨性・年齢別にみた項目 別指標の比較（区全体を 100とした場合）	P91	レーダーチャートがわかりやすいです。地区ごとのレーダーチャートがあってもいいですね。	圏域ごとのレーダーチャートについては、標本数が少なく、結果に偏りが出してしまう傾向があるため、掲載しないこととしました。
12	総合	—	総合すると、足腰の強化、口腔機能と外出機会・交流促進が計画のポイントとなりますね。	計画素案では、「健康づくりと介護予防の推進による健康寿命の延伸」を重点施策に位置付け、「高齢期の特性を踏まえた健康づくりと介護予防・フレイル予防の普及啓発」「住民主体の健康づくりと介護予防・フレイル予防活動への支援」に取り組むこととしています。これらの取組みにおいて、「運動・栄養・口腔機能の向上」「社会参加」「住民主体の通いの場」などをキーワードに施策を展開していきます。
13	全体	—	調査報告書なので、詳しい分析は出来ない状況ではあると思いますが、せっかく圏域別の統計も取っていて、その数の持つ意味を少しは解説しているので、その意図する内容をきちんと記載することと、最後に全体を通しての知見は概要として載せたらどうか？	今回の調査結果に基づき、圏域別に見たリスク項目別指標の比較も行いましたが、標本数が少ないため、参考としての掲載としました。今後、事業の実施にあたっては、調査結果を踏まえて取り組んでいきます。

各種リスク	1番多いエリア	2番目に多いエリア	3番目に多いエリア	4番目に多いエリア	5番目に多いエリア
運動機能の低下	若松町	柏木	戸塚	筧町	大久保
転倒	若松町	戸塚	角筧	柏木	落合第2
★ 閉じこもり傾向	若松町	柏木	榎木町	四谷	戸塚、落合第2
○ 低栄養状態	戸塚	四谷	榎木町	落合第2	若松町
口腔機能低下 むせ込み 咀嚼低下 口渇	若松町	落合第2	大久保	戸塚	榎木町
★ 認知機能低下	筧町	四谷	若松町	戸塚	榎木町
うつ傾向	落合第2	若松町	榎木町	大久保	戸塚
✓ 日常生活動作能力の低下	若松町	柏木、筧町	落合第1、角筧	榎木町	落合第2